すみれタイムス

SUMIRE TIMES

すみれ倶楽部会員様に年２回、日々の暮らしをちょっと楽しくしてくれる、素敵な情報をお届けしています。

2024年 第25号

発行：株式会社 公益社

〒630-8113 奈良市法蓮町413番地
TEL/0742-23-2115
FAX/0742-26-3338
http://www.narakoueki.co.jp/

ようこそ お寺へ

西山浄土宗 日輪山（にちりんざん） 称名寺（しょうみょうじ）

年に一度しか拝観できないお寺

称名寺は、文永2年（1265・鎌倉時代）に興福寺の学僧が常行念仏の道場として創建しました。当初は興福寺の別院で、興北寺とも呼ばれていましたが、明治維新以後、興福寺から離れ、現在に至ります。

1700年代（江戸時代）に、二度に渡る火災により諸堂がすべて焼失。四十年の歳月をかけて、享和2年（1802）に本堂と茶室「独盧庵」のみが再建されました。本堂には重要文化財に指定されている仏像がありますが、5月15日の「珠光忌」以外は一般公開されていません。境内にある、約1900体もの石仏がぎっしり並べられた千体地蔵尊は、圧巻の迫力があり、一般の信仰を厚くしています。

侘び茶の始祖・村田珠光ゆかりの地

称名寺は、侘び茶の祖として知られる村田珠光（1422～1502・室町時代）ゆかりの寺です。侘び茶は千利休が完成させたことで有名ですが、村田珠光はそれより前の時代に、侘び茶の基礎を作り上げました。

奈良に生まれた珠光は、11歳の時に出家、称名寺の小僧さんとして入寺しました。20代になると一旦帰俗して世俗の生活へ戻り、京都で能阿弥に師事します。そこで茶の湯を習い、大徳寺の一休宗純から学んだ禅の精神を基に、侘び茶の基礎となる礼式作法を打ち立てました。足利義政の茶道師範になるなど、名を馳せるようになった珠光でしたが、10年に渡って続く応仁の乱での世情不安から、奈良へ疎開して称名寺に戻りました。40代後半頃のことです。

珠光はなぜ称名寺を出て、また戻ってきたのか、伊藤尚瑞住職に伺うと、「小僧さんの頃から茶を好み，闘茶（お茶の味や香りなどを見て茶の種類を判断する賭け茶）に精通していたそうなので、僧侶との二足の草鞋の一足を脱いだのではないでしょうか。自分の殻を割って外に飛び出し、新しい世界を作り出す感性みたいなものをお持ちの方だったのでしょう。茶の湯の才を生かしたわけですから、彼があのまま称名寺で修業を続けていたら、今の茶道はなかった可能性がありますね。後年になって奈良に戻られたのは、現代でも若い頃に故郷を離れた人が年をとってから戻って来るということがありますが、それと同じかもしれません。珠光さんにとって称名寺は原点だったのではないかと思いますね。」

▲ 本堂

▲「独盧庵（どくろあん）」（俗称：珠光庵）

拝観データ

住　所／奈良市菖蒲池町7
電　話／0742-23-4438
拝　観／本堂・茶室は5月15日のみ拝観可
※それ以外は拝観できません
境内はいつでも無料で見学可（9:00～16:30）
駐車場／10台

〈行事案内〉
5月15日　「珠光忌」（10:00～15:00）
本堂拝観と茶室見学、お抹茶の接待
1,500円

珠光の命日に毎年行われる「珠光忌」

それまで十八畳の広い和室で行われていた華美で豪華だった書院茶に対して、珠光はその和室を四分の一に仕切った四畳半の茶室を用いて、敬と礼を重んじる簡素な侘び茶の基礎を確立しました。称名寺には、珠光が設けた「独盧庵」がありましたが、二度の火災で焼失、現在あるのは再建されたものです。伊藤住職によると、「珠光さんはあるものを使うという精神の方でね。竹藪から竹を切って茶匙を作ってみたり、朝鮮の雑器を茶碗にしたり、考え方が実用的なのです。だから、いまの独盧庵も珠光さんの精神を受け継いで時代に合わせて変化しています。珠光さんの時代にはなかった、にじり口がありますし、移動式の土壁と襖によって三畳と一畳半に仕切ることができる茶室となっています。」なぜ三畳と一畳半に仕切る必要があったかというと、「火災で焼失した本堂や茶室を再建するために尽力くださった一乗院や大乗院の方々をおもてなしするために考えた方法だったのです。四畳半の茶室にて、護衛の方がすぐ横におられては、ゆっくりお茶を味わっていただけません。ですので、部屋を小さく仕切り、護衛の方の控室として分断したわけです。」と教えてくださいました。ちなみに、独盧とは、孤独を楽しむとか、自分を見つめ直すという意味だそうです。

▲ 村田珠光の碑

創建年代不詳の石仏群、千体地蔵尊

境内の東側にある千体地蔵尊は、戦国武将・松永久秀が永禄2年（1559・戦国時代）に多聞城を築城する際に、奈良盆地から集めた地蔵石造で、その落城の後に多数散乱しているのを称名寺の第19代観阿上人が、貞享年間（1684～1688）に蒐集し合祀されたものです。この石仏の一部には、上部に凸部があり、本来は笠を被っている姿だと推測されます。

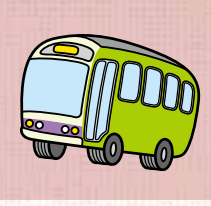
「おそらく城壁まで運ぶ際、積むのが面倒だからと取り外して集めたんでしょうねえ。多聞城跡の若草中学校にもまだたくさんの地蔵石造が残っていますが、やはり全て笠はないんですよね。」と伊藤住職。普段は、本堂と茶室は拝観不可ですが、境内は見学できますので、当時の様子に思いを馳せながら大地の仏様に手を合わせに訪れてみてはいかがでしょうか？

▲ 千体地蔵尊

第8回 すみれ倶楽部

日帰りバス旅行

会員様でなくても大歓迎です。
ご家族、お友達お誘い合わせでどうぞ。



投票第1位

大阪 箕面 川床での贅沢ランチと箕面大滝で心と体をリフレッシュ！

日時： 2024年5月31日(金) 8:30～17:30頃 ※雨天決行・荒天中止

おすすめポイント

- 料理旅館「音羽山荘」が提供する春の川床会席。箕面名産の食材を使い出汁にこだわった贅沢なランチを川のせせらぎ、美しいあおもみじを愉しみながらお召し上がりください。
- 「日本の滝百選」に選定されている落差33mの大滝。究極のパワースポットです。
- 写経体験で精神統一

散策していただきますので、
歩きやすい服装でご参加ください。
（途中、傾斜のきつい所がございます）
川床でのお食事は座敷になります。

募集人数：25名 最小催行人員15名 最大25名

※催行人員に満たない場合は、出発の前日から起算して7日前にお知らせいたします。
※定員数を超えた場合、抽選とさせていただきます。

参加費用 大人 **7,500円**（会員様、会員適用範囲の方）
8,000円（非会員）

割引 非会員の方（大人）をお一人同行ごとに **500円** 会員様の参加費を割り引きいたします。
例えば、お友達3名同伴の場合、会員様の参加費は **6,000円** となります。

お申し込み・お問い合わせ

お申し込みは、お電話かFAXもしくはご来店で

締切 2024年5月7日17時 まで

電話 すみれ倶楽部事務局
0120-23-2115 9時～17時
FAX：0742-26-3338
※会員番号、氏名、申し込み人数、必ず連絡の取れる電話番号をお伝えください。

来店 ほうれん会館、ならやま会館、メモリアルホール登美ヶ丘

抽選日 5月8日
当選された方にはお電話を差し上げます。

- 乗車場所 メモリアルホール登美ヶ丘、ならやま会館、ほうれん会館
  降車場所 （参加状況により検討いたします）
- 支払方法 店頭お申し込み時、当日バス乗車前のいずれかに現金でお支払いください。
- お申し込みのあった方（代表者様）には、行程表をお送りいたします。

---- バス旅行 行程表 ----

各地にて乗車 8:30	バス
10:00	写経体験
11:30	川床で昼食 自由散策
14:00	箕面大滝 観光
16:00	バス
各地にて降車 17:30	

※時間の変更がある場合がございます。ご了承ください。

公益社 お客様の会 すみれ倶楽部で紹介キャンペーン

すみれ倶楽部にお友達を紹介していただいた会員様に
QUOカード 1,000円分をプレゼント!!

詳しくはご入会いただいたホールまでお問い合わせ下さい。

ご紹介で入会された方には
入会金 3,000円 キャッシュバック

ほうれん会館・公益社本社	ならやま会館	メモリアルホール登美ヶ丘
〒630-8113 奈良市法蓮町413番地 0120-23-2115	〒630-8105 奈良市佐保台1-3574-4 0120-71-4211	〒630-0115 生駒市鹿畑町64-1 0120-51-0112